



# ひなどり

園だより 12月号  
平成30年11月30日  
新潟市立新津第三幼稚園

## よさをたくさん褒めて、自己肯定感の高い子どもに

園長 間嶋 哲

私が密かに楽しみにしているのが、毎月の誕生会です。その中では、一人一人の子どもたちに「一番好きな食べ物は何か？」などと尋ねるコーナーがあります。もしも「誕生会の中で一番好きなコーナーは？」と私が尋ねられたら、何と応えると思いますか。

子どもと触れ合うコーナー？確かに、子どもと戯れる絶好の機会ですが、必ずしも一番ではありません。11月の誕生会では全員が肩車を選び、未知の高さ(?)を体験しました。普段は肩車こそしません、それ以外のことは結構やっていますので、特別なことでもないのです。

みんなで歌うこと？もともと音楽が大好きな私には、こちら好きなことのひとつですが、一か月に1回程度しか弾かないギターの腕前は、落ちるばかり。さらには声量も下降気味。やはり普段からやっていないと駄目なものです。したがって、一番ではありません。

私にとって一番好きなコーナーは、おうちの方が前に出てきて、我が子のよさを存分に語っていただく場面です。おうちの方が生き生きと語ってくださるので、それを聴く子どもたちも、とても嬉しそうです。中には恥ずかしそうに聴いている子どももいます。その光景は、とても微笑ましく、自然と笑顔がこぼれます。

幼稚園の子どもたちには少し遠い未来ですが、全国の小学6年生約100万人が、毎年4月になると、全国学力・学習状況調査を受けます。国語や算数以外にアンケート調査もあり、今年度の第1問目は、「自分には、よいところがあると思いますか？」でした。「当てはまる」と応えた子どもは約41%。「どちらかという当てはまる」が約43%でした。つまり、自分のよさを肯定できる子どもは、6年生になると全国で約84%程度であるというのが現実です。学力との関連も調べられており、各教科の正答率が高い子どもほど、「自分には、よいところがある」と回答する割合が上がるそうなのです。

まだ先の話ですが、第三幼稚園の子どもたちが6年生になったら、堂々と「自分には、よいところがある」と言ってほしいと願っています。そのために必須なことが、周囲がよさを見つけて褒めてやることだと思います。

ただ現実的には、子育てをしていれば、子どもの短所に目が向いてしまうこともあるはずで。たとえば「行動が遅い」というような否定的な見方です。この言葉を言われ続けると、きっと「自分は行動が遅くて叱られている」と自然に思うようになるかもしれません。でも、少しだけ見方を変えれば「ゆとりを持ってマイペースで進められる」という表現に変わります。

私たち大人は、大いに褒め上手になって、自己肯定感の高い子どもに育てたいものです。

